

水道事業ガイドラインに基づく業務指標(PI)算出票

- (注)
1. 指標の優位性
「↑」は数値が高い方が望ましい場合、「↓」は数値が低い方が望ましい場合、「◇」はいずれとも示せない場合を表しています。
 2. 類似団体
業務指標等の比較を行うため、人口規模、水源種別、自己水比率等をもとに選定した本市と類似する水道事業体のことです。給水人口30万人以上50万人未満、自己水比率30%以上100%未満で業務指標 PI (JWWA Q 100 : 2005) を公表している6事業体。
奈良市、倉敷市、高松市、福山市、柏市、岡崎市
 3. 表中「-」は統計数値がないことを表しています。
 4. 表中「*」はガイドラインに示された特例的な条件のもと算出した数値であり、他市との比較をする場合注意が必要なものです。

吹田市水道部

分類	番号	業務指標	単位	定義(積算方法)	指標の優位性	28年度	29年度	28年度類似団体平均	指標の解説
【安心】 すべての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給									
水資源の保全	1001	水源利用率	%	(一日平均配水量/確保している水源水量)×100	◇	80.7	80.6	64.6	平均的な需要量における、水源のゆとり度、水源の効率性を表しています。
	1002	水源余裕率	%	[(確保している水源水量/一日最大配水量)-1]×100	◇	12.5	15.5	44.8	最大需要量におけるゆとり度を示すもので、渇水に対する安全度を表しています。
	1003	原水有効利用率	%	(年間有効水量/年間取水量)×100	↑	97.4	97.6	94.5	取水した原水に対してどれだけ有効に利用されたかを表しています。
	1004	自己保有水源率	%	(自己保有水源水量/全水源水量)×100	↑	43.1	43.0	37.5	水源運用の自由度を表しています。
	1005	取水量1m ³ 当たり水源保全投資額	円/m ³	水源保全に投資した費用/その流域からの取水量	↑	0.00	0.00	0.01	水源保全のために投資した金額を表しています。
	1101	原水水質監視度	項目	原水水質監視項目数	↑	* 131	* 131	111	原水水質をどの程度詳細に監視しているかを表す。
	1102	水質検査箇所密度	箇所/100km ²	(水質検査採水箇所数/給水区域面積)×100	↑	30.5	30.5	8.0	給水区域状況に応じた水質検査箇所の割合を表しています。
	1103	連続自動水質監視度	台/(1,000m ³ /日)	(連続自動水質監視装置設置数/一日平均配水量)×1,000	↑	0.096	0.096	0.038	連続自動水質監視設置数から見た、水質管理水準を表しています。
	1104	水質基準不適合率	%	(水質基準不適合回数/全検査回数)×100	↓	0.0	0.0	0.0	給水栓での水質基準値に対する不適合割合を表しています。
	1105	カビ臭から見たおいしい水達成率	%	[(1-ジェオスミン最大濃度/水質基準値)+(1-2-メチルイソボルネオール最大濃度/水質基準値)]/2×100	↑	100	100	70.8	水質基準を満たした上で、カビ臭原因物質の多少によるおいしさを表しています。
	1106	塩素臭から見たおいしい水達成率	%	[1-(年間残留塩素最大濃度-残留塩素水質管理目標値)/残留塩素水質管理目標値]×100	↑	33	45	32.5	水質基準を満たした上で、残留塩素の多少によるおいしさを表しています。
	1107	総トリハロメタン濃度水質基準比	%	(総トリハロメタン最大濃度/総トリハロメタン濃度水質基準値)×100	↓	25	23	44.8	水質基準を満たした上で、より良質な水を供給していることを表します。

分類	番号	業務指標	単位	定義（積算方法）	指標の優位性	28年度	29年度	28年度類似団体平均	指標の解説
水源から給水柱までの水質管理	1108	有機物（TOC）濃度水質基準比	%	(有機物最大濃度/有機物水質基準値)×100	↓	30	33	42	水質基準を満たした上で、より良質な水を供給していることを表します。
	1109	農薬濃度水質管理目標比	%	(測定を実施した農薬毎の最大濃度をそれぞれの水質管理目標値で除した値の合計値)/測定を実施した農薬数×100	↓	0.000	0.000	0.018	水道事業者が策定している「水質検査計画」に記載している農薬について、多少による安全性を表します。
	1110	重金属濃度水質基準比	%	(6項目の重金属毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計)/6×100	↓	0	0	6	水質基準項目のうち、6種類の重金属の多少による安全性を表します。
	1111	無機物濃度水質基準比	%	(6項目の無機物毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計)/6×100	↓	14	13	14	水質基準項目のうち、6種類の無機物の多少による味や色などの性状を表します。
	1112	有機物濃度水質基準比	%	(4項目の有機物毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計)/4×100	↓	3	7	4	水質基準項目のうち、4種類の有機物の多少による基本的な性状を表します。
	1113	有機塩素化学物質濃度水質基準比	%	(9項目の有機塩素化学物質毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計)/9×100	↓	0	0	1	水質基準項目のうち、7種類と、水質管理目標設定項目2種類の有機塩素化合物の多少による安全性を表します。
	1114	消毒副生成物濃度水質基準比	%	(5項目の消毒副生成物毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計)/5×100	↓	10	10	19	水質基準項目のうち、5種類の消毒副生成物の多少による安全性を表します。
	1115	直結給水率	%	(直結給水件数/給水件数)×100	↑	87.3	87.8	91.9	水質管理の信頼性確保に対する取組み度合いや、良質の水道水を供給するというサービスの向上を表しています。
	1116	活性炭投入率	%	年間活性炭投入日数/年間日数×100	↓	0.0	0.0	51.8	粉末活性炭の投入日数により、原水の水質悪化を表します。
	1117	鉛製給水管率	%	(鉛製給水管使用件数/給水件数)×100	↓	11.8	10.1	21.0	全給水件数に占める鉛製給水管の使用割合を表します。

【安定】いつでもどこでも安定的に生活用水を確保

連続した水道水の供給	2001	給水人口一人当たり貯留飲料水量	L/人	〔(配水池総容量(緊急貯水槽容量は除く)×1/2+緊急貯水槽容量)/給水人口〕×1000	↑	84	84	166	災害時に給水人口一人当たり何リットルの飲料水が配水池に確保出来るかを表します。
	2002	給水人口一人当たり配水量	L/日/人	(一日平均配水量/給水人口)×1,000	↓	312	309	310	お客さまの節水型消費パターンの促進の割合を表します。
	2003	浄水予備力確保率	%	[(全浄水施設能力-一日最大浄水量)/全浄水施設能力]×100	↑	5.7	14.9	28.0	全浄水施設能力に対する予備力の割合であり、水運用の安定性、柔軟性及び危機対応性を表します。
	2004	配水池貯留能力	日	配水池総容量/一日平均配水量	↑	0.54	0.54	0.99	給水に対する安全性、災害、事故等に対する危機対応性を表します。
	2005	給水制限数	日	年間給水制限日数	↓	0	0	7	お客さまの快適・利便性、給水サービスの安定性を表します。
	2006	普及率	%	(給水人口/給水区域内人口)×100	↑	99.9	99.9	98.3	給水サービスを受けているお客さまの割合を表します。
	2007	配水管延長密度	km/km ²	配水管延長/給水区域面積	↑	19.1	19.2	10.0	お客さまからの給水管引き込み申し込みに対する、物理的な利便性(容易さ)を表します。
	2008	水道メータ密度	個/km	水道メータ数/配水管延長	↑	205	208	86	配水管のサービス効率を表します。

分類	番号	業務指標	単位	定義（積算方法）	指標の優位性	28年度	29年度	28年度類似団体平均	指標の解説
将来への備え	2101	経年化浄水施設率	%	(法定耐用年数を超えた浄水施設能力/全浄水施設能力)×100	↓	0.0	0.0	1.7	法定耐用年数を超えた浄水施設がどの程度の割合を占めるのかを表します。
	2102	経年化設備率	%	(経年化年数を超えている電気・機械設備数/電気・機械設備の総数)×100	↓	76.3	78.9	48.5	法定耐用年数を超えた電気・機械設備がどの程度の割合を占めるのかを表します。
	2103	経年化管路率	%	(法定耐用年数を超えた管路延長/管路総延長)×100	↓	37.5	37.3	19.5	法定耐用年数を超えた管路の割合がどの程度の割合を占めるのかを表します。
	2104	管路の更新率	%	(更新された管路延長/管路総延長)×100	↑	1.05	1.21	0.74	管路の信頼性確保に対する執行度合いを示すため、1年間に更新された管路の割合を表します。
	2105	管路の更生率	%	(更生された管路延長/管路総延長)×100	◇	0.014	0.003	0.000	管路の信頼性確保に対する執行度合いを示すため、1年間に更生された管路の割合を表します。
	2106	バルブの更新率	%	(更新されたバルブ数/バルブ設置数)×100	↑	1.22	1.76	0.79	配水制御上の信頼性確保に対する執行度合いを示すため、1年間に交換されたバルブの割合を表します。
	2107	管路の新設率	%	(新設管路延長/管路総延長)×100	◇	0.07	0.42	0.55	お客さまに給水サービスを提供できる地域を広げるための年間の管路整備の割合を表します。
リスクの管理	2201	水源の水質事故数	件	年間水源水質事故件数	↓	0	0	0.7	水源水質事故件数を示すことにより、お客さまへの給水サービスの安定性を表します。
	2202	幹線管路の事故割合	件/100km	(幹線管路の事故件数/幹線管路延長)×100	↓	2.6	2.5	0.4	幹線管路の健全性を表します。
	2203	事故時配水量率	%	(事故時配水量/一日平均配水量)×100	↑	60.9	62.5	86.1	事故時におけるお客さまへの給水の安定性を表します。
	2204	事故時給水人口率	%	(事故時給水人口/給水人口)×100	↓	63.5	63.5	32.3	事故時におけるお客さまへの給水の安定性を表します。
	2205	給水拠点密度	箇所/100km ²	(配水池・緊急貯水槽数/給水区域面積)×100	↑	22.2	22.2	18.2	100km ² 当たりの応急給水拠点数を示し、災害時におけるお客さまの飲料水の確保のしやすさを表します。
	2206	系統間の原水融通率	%	原水の融通能力/受水側浄水能力×100	◇	0.0	0.0	0.0	他系統からの融通可能な原水量の割合であり、水運用の柔軟性を表します。
	2207	浄水施設耐震率	%	(耐震対策の施されている浄水施設能力/全浄水施設能力)×100	↑	0.0	0.0	30.6	震災時においても浄水施設として安定的な浄水処理ができるかどうかを表します。
	2208	ポンプ所耐震施設率	%	(耐震対策の施されているポンプ所能力/全ポンプ所能力)×100	↑	* 97.7	* 97.7	35.8	震災時においても浄水施設として安定的な浄水処理ができるかどうかを表します。
	2209	配水池耐震施設率	%	(耐震対策の施されている配水池容量/配水池総容量)×100	↑	90.3	90.3	62.6	震災時においても配水池として安定的な給水ができるかどうかを表します。
	2210	管路の耐震化率	%	(耐震管延長/管路総延長)×100	↑	16.1	17.6	25.4	震災時における水道システムの安全性、信頼性を表します。
	2211	薬品備蓄日数	日	平均薬品貯蔵量/一日平均使用量	↑	* 32.8	* 31.9	23.4	震災時等における浄水処理の安定性を表します。
	2212	燃料備蓄日数	日	平均燃料貯蔵量/一日使用量	↑	* 0.9	* 0.9	0.9	震災時等における浄水処理の安定性を表します。
	2213	給水車保有度	台/1,000人	(給水車数/給水人口)×1,000	↑	0.0054	0.0054	0.0072	緊急時等に有効な応急給水活動を実施できるかを表します。
	2214	可搬ポリタンク・ポリバック保有度	個/1,000人	(可搬ポリタンク・ポリバック数/給水人口)×1,000	↑	316.9	315.2	50.9	緊急時等に有効な応急給水活動を実施できるかを表します。

分類	番号	業務指標	単位	定義（積算方法）	指標の優位性	28年度	29年度	28年度類似団体平均	指標の解説
	2215	車載用の給水タンク保有度	m ³ /1,000人	(車載用給水タンクの総容量/給水人口)×1,000	↑	0.049	0.049	0.077	緊急時等に有効な応急給水活動を実施できるかを表します。
	2216	自家用発電設備容量率	%	自家用発電設備容量/当該設備の電力総容量×100	↑	* 65.7	* 65.9	55.2	非常時における稼働可能な電気設備の割合を示すもので、危機対応性を表します。
	2217	警報付施設率	%	(警報付施設数/全施設数)×100	↑	100.0	100.0	31.3	不法侵入者等に対する水道施設の安全性確保への取組みを表します。
	2218	給水装置の凍結発生率	件/1,000件	(給水装置の年間凍結件数/給水件数)×1,000	↓	0.0	0.3	0.0	寒冷地でのみ使用できる業務指標。

【持続】いつまでも安心できる水を安定して供給

地域特性にあった運営基盤の強化	3001	営業収支比率	%	(営業収益/営業費用)×100	↑	111.7	112.1	115.6	営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを表し、収益性を見る際の最も代表的な指標。
	3002	経常収支比率	%	(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)×100	↑	116.2	119.0	121.7	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを表し、収益性を見る際の最も代表的な指標。
	3003	総収支比率	%	(総収益/総費用)×100	↑	117.4	119.0	121.7	総費用が総収益によってどの程度賄われているかを表します。
	3004	累積欠損金比率	%	累積欠損金/(営業収益-受託工事収益)×100	↓	0.0	0.0	0.0	営業収益に対する累積欠損金の割合で、経営状況の健全性を表します。
	3005	繰入金比率（収益的収支分）	%	損益勘定繰入金/収益的収入×100	↓	0.2	0.2	0.4	収益的収入に対する繰入金の依存度を表し、事業の経営状況の健全性、効率性を示す指標の一つです。
	3006	繰入金比率（資本的収入分）	%	資本勘定繰入金/資本的収入×100	↓	2.7	1.2	8.4	資本的収入に対する繰入金の依存度を表し、事業の経営状況の健全性、効率性を示す指標の一つです。
	3007	職員一人当たり給水収益	千円/人	給水収益/損益勘定所属職員数/1,000	↑	61,437	60,056	87,540	損益勘定職員一人当たりの生産性について、給水収益を基準として把握するための指標です。
	3008	給水収益に対する職員給与費の割合	%	職員給与費/給水収益×100	↓	18.1	17.4	12.8	給水収益に対する職員給与費の割合を表し、事業の生産性及び効率性を分析するための指標の一つです。
	3009	給水収益に対する企業債利息の割合	%	企業債利息/給水収益×100	↓	3.6	3.2	5.5	給水収益に対する企業債利息の割合を表し、事業の効率性及び財務安定性を分析するための指標の一つです。
	3010	給水収益に対する減価償却費の割合	%	減価償却費/給水収益×100	↓	16.2	16.0	33.9	給水収益に対する減価償却費の割合を表し、事業の効率性を分析するための指標の一つです。
	3011	給水収益に対する企業債償還金の割合	%	企業債償還金/給水収益×100	↓	10.1	9.8	16.8	給水収益に対する企業債償還金の割合を表し、企業債償還金が経営に与える影響を分析するための指標です。
	3012	給水収益に対する企業債残高の割合	%	企業債残高/給水収益×100	↓	160.4	170.1	250.7	給水収益に対する企業債残高の割合を表し、企業債残高の規模と経営への影響を分析するための指標。
	3013	料金回収率（給水にかかる費用のうち水道料金で回収する割合）	%	供給単価/給水原価×100	↑	108.4	109.4	117.9	給水に係る費用が料金収入でどの程度賄われているかを表し、経営状況の健全性を示す指標の一つです。
	3014	供給単価	円/m ³	給水収益/有収水量	◇	144.3	150.1	159.4	収益となる給水量1m ³ 当たりについて、どれだけの収益を得ているかを表します。
3015	給水原価	円/m ³	(経常費用-受託工事費等-長期前受金戻入見合いの減価償却費等)/有収水量	↓	133.1	137.1	138.3	収益となる給水量1m ³ 当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表します。	
3016	1箇月当たり家庭用料金（10立方メートル）	円	1箇月当たりの一般家庭用（口径13ミリメートル）の基本料金+10立方メートル使用時の従量料金	↓	790	870	1,078	標準的な家庭における水使用量に対する料金を表し、お客さまの経済的負担を示す指標の一つです。	

分類	番号	業務指標	単位	定義（積算方法）	指標の優位性	28年度	29年度	28年度類似団体平均	指標の解説
	3017	1箇月当たり家庭用料金(20立方メートル)	円	1箇月当たりの一般家庭用（口径13ミリメートル）の基本料金＋20立方メートル使用時の従量料金	↓	1,990	2,070	2,390	世帯人数2～3人の標準的な家庭の使用水量を想定し、その料金を表します。
	3018	有収率	%	有収水量／給水量×100	↑	95.9	96.0	93.9	年間配水量に対し収益につながった給水量の割合を表します。
	3019	施設利用率	%	(一日平均給水量/一日給水能力)×100	↑	81.1	81.0	66.0	水道施設の稼働状態を示すことにより、施設の効率性を表します。
	3020	施設最大稼働率	%	(一日最大給水量/一日給水能力)×100	↑	89.3	87.0	73.0	水道施設の稼働状態を示すことにより、施設の効率性を表します。
	3021	負荷率	%	(一日平均給水量/一日最大給水量)×100	↑	90.9	93.0	90.4	水道施設の稼働状態を示すことにより、施設の効率性を表します。
	3022	流動比率	%	流動資産／流動負債×100	↑	247.3	198.9	309.5	1年以内に償還しなければならない短期の債務に対する支払い能力を表します。
	3023	自己資本構成比率	%	(資本金＋剰余金)／負債・資本合計×100	↑	67.1	64.8	56.2	総資本(負債及び資本)に占める自己資本の割合を示し、財務的健全性を表します。
	3024	固定比率	%	[固定資産/(資本金＋剰余金)]×100	↓	125.5	129.4	169.4	自己資本がどの程度固定資産に投下されているかを見る指標。
	3025	企業債償還元金対減価償却費比率	%	企業債償還元金／当年度減価償却費×100	↓	62.5	61.0	49.5	投下資本の回収と再投資との間のバランスを見る指標。
	3026	固定資産回転率	回	(営業収益－受託工事収益)/[(期首固定資産＋期末固定資産)/2]	↑	0.20	0.20	0.12	1年間に固定資産額の何倍の営業収益(受託工事収益を除く)があったかを示します。
	3027	固定資産使用効率	m ³ /10,000円	(給水量/有形固定資産)×10,000	↑	13.7	12.8	7.9	給水量の有形固定資産に対する値であり、施設の効率性を示す指標。
水道文化・技術の継承と発展	3101	職員資格取得度	件/人	職員が取得している法定資格数 / 全職員数	↑	1.69	1.78	2.22	職員が一人当たり持っている法定資格の件数を示します。
	3102	民間資格取得度	件/人	職員が取得している民間資格取得数 / 全職員数	↑	0.08	0.07	0.22	職員が一人当たり持っている法定民間資格の件数を示します。 (直接業務に関係のある4種の資格)
	3103	外部研修時間	時間	(職員が外部研修を受けた時間・人数) / 全職員数	↑	15.4	20.5	8.3	職員一人当たりの外部研修を受けた時間数を示します。
	3104	内部研修時間	時間	(職員が内部研修を受けた時間・人数) / 全職員数	↑	7.6	8.2	6.5	職員一人当たりの内部研修を受けた時間数を示します。
	3105	技術職員率	%	(技術職員総数 / 全職員数) × 100	◇	69.0	70.2	62.5	技術職員総数の全職員に対する割合を示します。
	3106	水道業務経験年数度	年/人	全職員の水道業務経験年数 / 全職員数	◇	16.8	15.6	12.3	水道業務の経験年数により人的資源としての専門技術の蓄積を示します。
	3107	技術開発職員率	%	(技術開発業務従事職員数 / 全職員数) × 100	↑	0.00	0.00	0.00	水道技術開発に対する人的投資の度合いを示します。
	3108	技術開発費率	%	(技術開発費 / 給水収益) × 100	↑	0.00	0.00	0.00	水道技術開発に対する投資の度合いを示します。
	3109	職員一人当たり配水量	m ³ /人	年間配水量 / 全職員数	↑	369,600	344,300	425,909	水道サービス全般の効率性を示す指標の一つです。

分類	番号	業務指標	単位	定義（積算方法）	指標の優位性	28年度	29年度	28年度類似団体平均	指標の解説
	3110	職員一人当たりメータ数	個/人	水道メータ数 / 全職員数	↑	1,252	1,192	1,684	水道サービス全般の効率性を示す指標の一つです。
	3111	公傷率	%	[(公傷で休務した延べ人・日数) / (全職員数 × 年間公務日数)] × 100	↓	0.015	0.000	0.001	水道事業者の安全衛生管理の水準を表しています。
	3112	直接飲用率	%	(直接飲用回答数 / 直接飲用アンケート回答数) × 100	↑	53.6	47.7	68.9	水道水を飲用している消費者の割合を示します。
消費者ニーズをふまえた給水サービスの充実	3201	水道事業に係る情報の提供度	部/件	広報誌配布部数 / 給水件数	↑	2.1	2.1	1.9	水道事業への理解や透明性の確保等を目的として行っている広報の活動状況を示します。
	3202	モニタ割合	人/1,000人	(モニタ人数 / 給水人口) × 1,000	↑	0.054	0.054	0.010	お客さまとの双方向コミュニケーションを推進している度合いを示します。
	3203	アンケート情報収集割合	人/1,000人	(アンケート回答人数 / 給水人口) × 1,000	↑	4.67	8.19	0.7	お客さまのニーズの収集実行度を示します。
	3204	水道施設見学者割合	人/1,000人	(見学者数 / 給水人口) × 1,000	↑	16.9	12.6	5.2	水道事業への理解や透明性の確保等を目的として行っている情報提供の活動状況を示します。
	3205	水道サービスに対する苦情割合	件/1,000件	(水道サービス苦情件数 / 給水件数) × 1,000	↓	—	—	0.3	お客さまからの苦情の割合を示します。
	3206	水質に対する苦情割合	件/1,000件	(水質苦情件数 / 給水件数) × 1,000	↓	0.15	0.17	0.16	お客さまの水質への満足度を示す指標の一つです。
	3207	水道料金に対する苦情割合	件/1,000件	(水道料金苦情件数 / 給水件数) × 1,000	↓	—	—	0	水道サービスに対する水道料金の顧客満足度を示します。
	3208	監査請求数	件	年間監査請求件数	↓	0	0	0	水道事業に関する法令に基づく監査請求の件数です。
	3209	情報開示請求数	件	年間情報開示請求件数	◇	19	8	23	水道事業に関する法令に基づく情報開示請求の件数です。
	3210	職員一人当たり受付件数	件/人	受付件数 / 全職員数	↑	540	507	501	職員一人当たりの効率性を把握するための指標です。

【環境】環境保全への貢献

地球温暖化防止、環境保全などの推進	4001	配水量1m ³ 当たり電力消費量	kWh/m ³	全施設の電力使用量 / 年間配水量	↓	0.27	0.26	0.33	環境保全への取組みの度合いを見る指標の一つです。
	4002	配水量1m ³ 当たり消費エネルギー	MJ/m ³	全施設での総エネルギー消費量 / 年間配水量	↓	0.99	0.94	1.09	環境保全への取組みの度合いを見る指標の一つです。
	4003	再生可能エネルギー利用率	%	(再生可能エネルギー設備の電力使用量 / 全施設の電力使用量) × 100	↑	0.00	0.00	0.11	再生可能エネルギー(太陽光発電、風力発電等)の利用の割合を示し、環境保全への取組みの度合いを見る指標の一つです。
	4004	浄水発生土の有効利用率	%	(有効利用土量 / 浄水発生土量) × 100	↑	62.7	47.8	100.0	浄水処理過程における発生土の有効利用であり、環境保全への取組み度合いを見る指標の一つです。
	4005	建設副産物のリサイクル率	%	(リサイクルされた建設副産物量 / 建設副産物排出量) × 100	↑	100.0	97.4	67.9	水道事業の工事等において、発生する建設副産物の有効利用であり、環境保全への取組み度合いを見る指標の一つです。
	4006	配水量1m ³ 当たり二酸化炭素(CO ₂)排出量	g・CO ₂ /m ³	[総二酸化炭素(CO ₂)排出量 / 年間配水量] × 10 ⁶	↓	135	128	174	環境保全への取組みの度合いを見る指標の一つです。
	4101	地下水率	%	地下水揚水量/水源利用水量 × 100	↑	12.9	11.8	15.8	地下水揚水量の水源利用水量に対する割合を示します。

分類	番号	業務指標	単位	定義（積算方法）	指標の優位性	28年度	29年度	28年度類似団体平均	指標の解説
【管理】水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理									
適正な実行・業務運営	5001	給水圧不適正率	%	[適正な範囲になかった圧力測定箇所・日数 / (圧力測定箇所総数 × 年間日数)] × 100	↓	0.00	0.00	2.92	お客さまへの給水サービスの安定性を示す指標の一つです。
	5002	配水池清掃実施率	%	[最近5年間に清掃した配水池容量 / (配水池総容量 / 5)] × 100	↑	246	246	203	配水池の管理状況を示しています。
	5003	年間ポンプ平均稼働率	%	[ポンプ運転時間の合計 / (ポンプ総台数 × 年間日数 × 24)] × 100	◇	31.6	31.5	24.0	年間に水道施設の主要設備であるポンプがどの程度稼働しているかを示しています。
	5004	検針誤り割合	件/1,000件	(誤検針件数 / 検針総件数) × 1,000	↓	—	—	0.0	検針の正確性の度合いを見る指標の一つです。
	5005	料金請求誤り割合	件/1,000件	(誤料金請求件数 / 料金請求総件数) × 1,000	↓	—	—	0.0	料金請求の正確性の度合いを見る指標の一つです。
	5006	料金未納率	%	(年度末未納料金総額 / 総料金収入額) × 100	↓	7.9	7.9	6.8	年度末に収納されていない金額の総料金収入額に対する割合を示し、料金滞納の度合いを見る指標の一つです。
	5007	給水停止割合	件/1,000件	(給水停止件数 / 給水件数) × 1,000	↓	3.8	3.9	10.3	料金の未納により給水停止を実施した件数の割合を示し、料金滞納の度合いを見る指標の一つです。
	5008	検針委託率	%	(委託した水道メータ数 / 水道メータ数) × 100	◇	100.0	100.0	99.4	業者に検針を委託した水道メーター数の総数に対する割合を示します。
	5009	浄水場第三者委託率	%	第三者委託した浄水場能力 / 全浄水場能力 × 100	◇	0.0	0.0	0.0	浄水場の運転管理を第三者委託した浄水能力の総浄水能力に対する割合を示します。
適正な維持管理	5101	浄水場事故割合	10年間の件数/箇所	10年間の浄水場停止事故件数 / 浄水場総数	↓	0.0	0.0	0.1	過去10年間に事故で送水停止した件数の総浄水所数に対する割合を示し、浄水所の安定度を示します。
	5102	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率	%	[(ダクタイル鋳鉄管延長 + 鋼管延長) / 管路総延長] × 100	↑	67.5	68.5	59.1	導・送・配水管路の材質に視点を当てた指標で、管路の安定性、維持管理上の容易性を示します。
	5103	管路の事故割合	件/100km	(管路の事故件数 / 管路総延長) × 100	↓	5.7	5.9	6.8	導・送・配水管の年間の事故件数を100km当たりの件数に換算したもので、管路の健全性を示します。
	5104	鉄製管路の事故割合	件/100km	(鉄製管路の事故件数 / 鉄製管路総延長) × 100	↓	4.6	3.7	3.1	鉄製管路の年間の事故件数を100km当たりの件数に換算したもので、鉄製管路の健全性を示します。
	5105	非鉄製管路の事故割合	件/100km	(非鉄製管路の事故件数 / 非鉄製管路総延長) × 100	↓	15.3	27.6	12.4	非鉄製管路の年間の事故件数を100km当たりの件数に換算したもので、非鉄製管路の健全性を示します。
	5106	給水管の事故割合	件/1,000件	(給水管の事故件数 / 給水件数) × 1,000	↓	3.3	3.3	4.3	給水件数1,000件当たりの給水管の事故件数を示し、給水管の健全性を示します。
	5107	漏水率	%	(年間漏水量 / 年間配水量) × 100	↓	2.0	1.8	3.3	年間の漏水量の総配水量に対する割合を示し、事業効率を表す代表的な指標の一つです。
	5108	給水件数当たり漏水量	m ³ /年/件	年間漏水量 / 給水件数	↓	5.1	4.5	9.1	給水件数1件当たりの年間の漏水量を示します。
	5109	断水・濁水時間	時間	(断水・濁水時間 × 断水・濁水区域給水人口) / 給水人口	↓	0.04	0.07	0.02	年間平均的に何時間断水・濁水があったかを示します。
	5110	設備点検実施率	%	(電気・計装・機械設備等の点検回数 / 電気・計装・機械設備等の法定点検回数) × 100	↑	100	100	407	年間に水道施設の主要設備の点検が機器数に対してどの程度実施されたかを示しており、管理の適正度を示します。

分類	番号	業務指標	単位	定義（積算方法）	指標の優位性	28年度	29年度	28年度類似団体平均	指標の解説
	5111	管路点検率	%	(点検した管路延長 / 管路総延長) × 100	↑	89	91	21	管路に対する年間の点検率で、管路の健全性確保に対する執行度合いを示します。
	5112	バルブ設置密度	基/km	バルブ設置数 / 管路総延長	↑	17.8	17.8	17.5	管路1Km当たりに対するバルブの設置数を示し、配水操作の柔軟性や管路の維持管理の容易性を示します。
	5113	消火栓点検率	%	(点検した消火栓数 / 消火栓数) × 100	↑	100.0	100.0	120.0	年間で点検した消火栓の総数に対する割合を示し、消防水利機能の健全性確保に対する執行度合いを示します。
	5114	消火栓設置密度	基/km	消火栓数 / 配水管延長	↑	8.1	8.0	2.9	管路1Km当たりに対する消火栓の設置数を示し、消防能力、救命ライフラインとしての危機対応能力の度合いを示します。
	5115	貯水槽水道指導率	%	(貯水槽水道指導件数 / 貯水槽水道総数) × 100	↑	31.7	31.6	11.1	年間の貯水槽水道に対する調査・指導の割合を示し、貯水槽に対する関与の度合いを示します。

【国際】我が国の経験の海外移転による国際貢献

技術の移転	6001	国際技術等協力度	人・週	人的技術等協力者数 × 滞在週数	↑	0	0	0	技術協力のため海外へ滞在した職員の数等を示し、国際協力の度合いを表します。
国際機関、諸国との交流	6101	国際交流数	件	年間人的交流件数	↑	1	1	0.0	年間の海外との相互交流の件数を示し、国際交流の度合いを表します。